

シリーズ

「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。

「森太郎が残してくれたもの」
もりたろう



信越トレイルクラブ
代表理事
きむら ひろし
木村 宏

■自己紹介

平成十六年に国有林の局境でもある関田山脈を主体として整備された信越トレイル。今回は開設のきっかけともなったブナの森の保全活動を紹介します。

■活動内容

平成十二年、林野庁は生態系の形成において重要な役割を果たしてきた国有林内の巨樹・巨木一〇〇選を発表しました。長野県では四つの巨木が選定され、そのうちの一つがブナの大木「森太郎」

でした。信越トレイルは、この森太郎の保全活動がきっかけで誕生したといっても過言ではありません。

当時、飯山市鍋倉山麓には名前のついたブナの大木がいくつかあり、毎週のようにこのブナに逢うためのハイカーが山麓に集まっていました。私は、飯山市の自然体験施設「なべくら高原・森の家」に勤務しており、ブナの森にお客様をいざないながらも、ハイカーによる山道や木の根元の踏圧、直接木肌に触れたり登ったりと、巨木ブナもさることながら周辺環境の破壊にもつながる行為に懸念を抱いていました。そこで、生態系に極力負荷を与えない山道づくりや、ブナとの接し方について啓発活動を行いました。

多くのボランティアの方々の「森太郎が、健全な姿でいてほしい」との想いが活動のすそ野を広げ、やがて、この道づくりが鍋倉

山麓にとどまらず、ブナの森が続く長野県と新潟県の県境の道の開削へと範囲を広げていきました。この道こそ斑尾山から苗場山までの歩く道「信越トレイル」一一〇キロなので。



地域の里山の風景

■メッセージ

令和四年五月、「森太郎」が突然倒れました。毎年保全活動を通じ、観察を続けていたにもかかわらず、意外な（枯死寸前といった印象はありませんでした）結末を迎えました。「森太郎」は四〇〇歳という地球上でも最も長生きな生態としての価値や森が長い年月をかけて更新していく様、森の中での巨木の立ち位置や動植物との関わりなど、様々なメッセージを発信し続けてきました。倒れてもなお、木の幹に新たな木の芽や菌茸類が寄生し、横たわった幹の周りには日が当たり、新たなブナの若木が

成長し始めています。森の生態、代替わりの仕組みを我が身をもって観察しなさい、と言っているようです。信越トレイルはこのブナの森の保全活動と同じく、生物多様性を基本とするガイドラインを掲げ、人と自然の共生を念頭に置いた活動をしています。まさに「森太郎」の教えを実行しているのです。



倒れても森林や人を育てる森太郎

○連絡先

飯山市照岡1571-15
NPO法人
信越トレイルクラブ事務局
<https://www.s-trail.net/>

